南海トラフ巨大地震と
いかに向き合うか

～想定津波高全国一の町の取り組み～

人が元気、自然が元気、地域が元気

黒　潮　町

黒潮町長　大 西 勝 也

東日本大震災発生から、約１年後
２０１２年３月３１日
黒潮町に突き付けられたこと・・・

予想される南海トラフ巨大地震（新想定）
・黒潮町の最大震度「７」
・黒潮町で予想される津波「３４．４m」
・高知県沿岸の到達時間「２分」

以上。

世帯別津波避難行動記入シート

役場記入欄

地域名	班	世帯NO	カルテ年度

太枠内の設問に記入をお願いします。

■ご家族の情報を記入してください。

番号	お名前（○印：代表者）	性別	年齢	ご自分で避難ができますか	（自力避難できない場合）家族の力で避難可能ですか
1	○		歳	できる ・ できない	できる ・ できない
2			歳	できる ・ できない	できる ・ できない
3			歳	できる ・ できない	できる ・ できない
			歳	できる ・ できない	できる ・ できない
7			歳	できる ・ できない	できる ・ できない
8			歳	できる ・ できない	できる ・ できない

家族構成

自力避難の可否

■連絡先を記載してください。

連絡先（複数）

第1連絡先 （ ）

第2連絡先 （ ）

第3連絡先 （ ）

■津波避難の情報を記入してください。

番号	津波避難場所		避難訓練参加状況	
	第1候補	第2候補	いつ頃	避難にかかった時間
1				分程度
2				分程度
3				
4				
5				
6				
7				
8				

避難先（予備含む）と到達所要時間

■現在考えられている津波避難の方法を記入してください。

番号	どのような方法で避難を考えていますか
1	徒歩 ・ 自動車 ・ バイク ・ 自転車 ・ その他（ ）
2	自動車 ・ バイク ・ 自転車 ・ その他（ ）
3	徒 車 ・ バイク ・ 自転車 ・ その他（ ）
4	徒 イク ・ 自転車 ・ その他（ ）
8	徒歩 ・ 自動車 ・ バイク ・ 自転車 ・ その他（ ）

避難方法（徒歩・車・自転車等）

■最寄りの「防災となり組」
大規模災害が発生した
このようなとなり・近所の
あなたの「防災となり組」

防災となり組の氏名と自宅との距離

「防災となり組」① さん（ 自宅から 程度 ）

「防災となり組」② さん（ 自宅から 程度 ）

「防災となり組」③ さん（ 自宅から 程度 ）

■ご自宅の情報を記入してください。

自宅の耐震性

	築年数又は建築年		耐震補強工事
ご自宅	築 年 昭和 ・ 平成 年建築	実施済み ・ 実施していない	実施済み ・ 実施していない

■家具転倒防止の実施状況を記入してく

	家
ご自宅	固定済み(

家具転倒防止対策の状況

■避難するうえで不安なこと等があれば記載してください。（自由記入）

避難上の課題

有資格者の有無（医療、消防等）

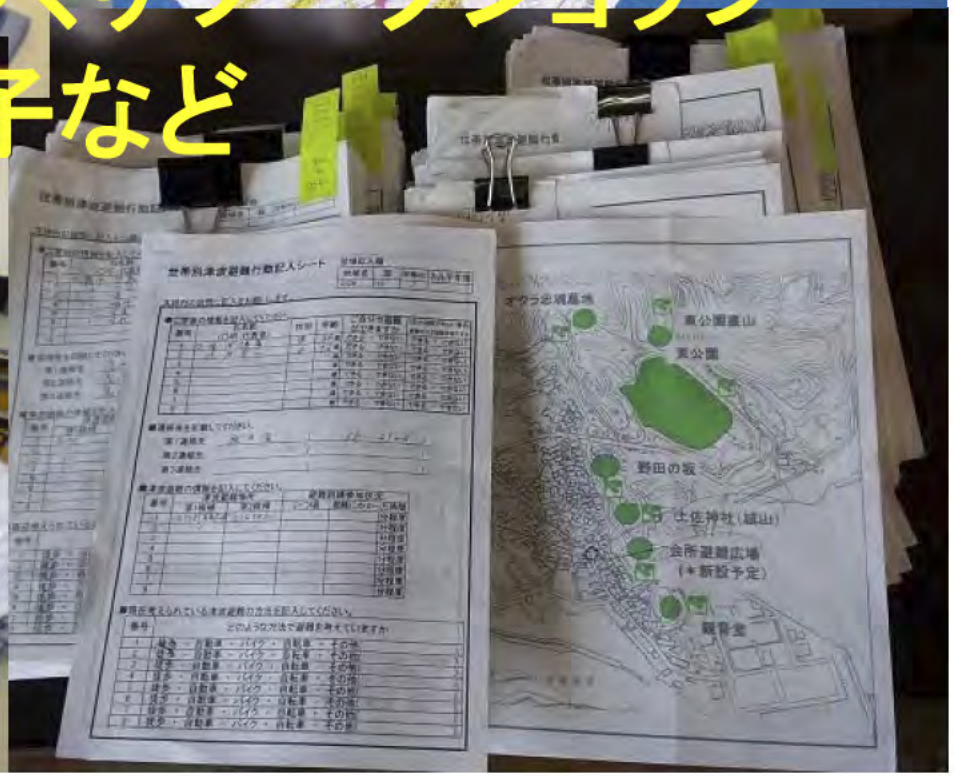
■ご家族で現役またはOB、OGで医師、看護師
児童福祉司、作業療法士、ヘルパー、警察、消防士などの有資格者がいらっしゃ
いましたら、その情報を記載してください。

個人情報提供可能先の確認

■個人情報保護及び共有
世帯別津波避難行動調査で 人情報は防災
また、この情報は役場内関係部 下記の関係機
防災計画等に反映していきたいと考 います。
情報共有してもらいたくない関係機関が りましたら、

役場	警察署	消防署	区長	民生委員	消防団	社会福祉協議会

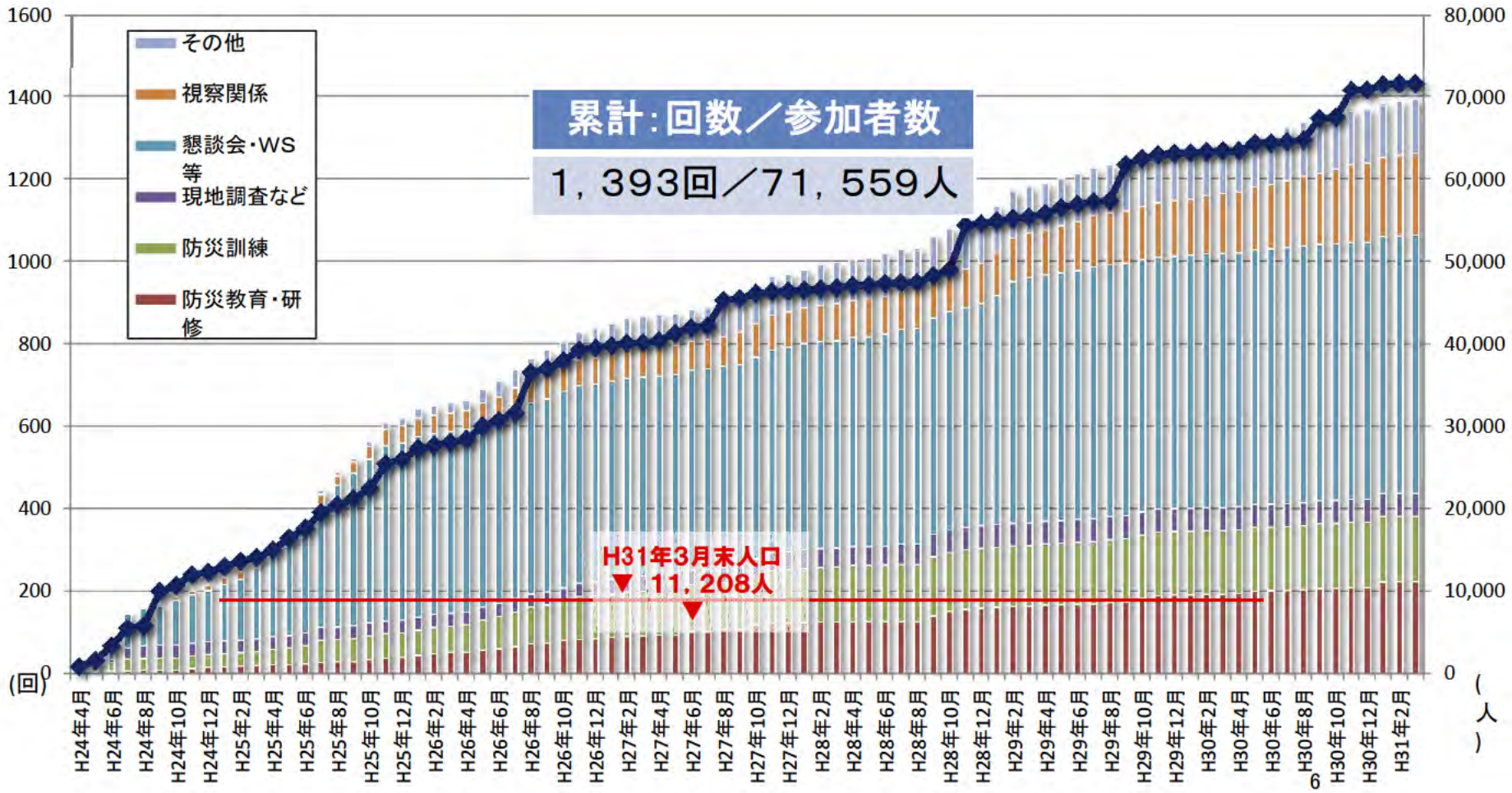
戸別避難カルテづくりワークショップの様子など



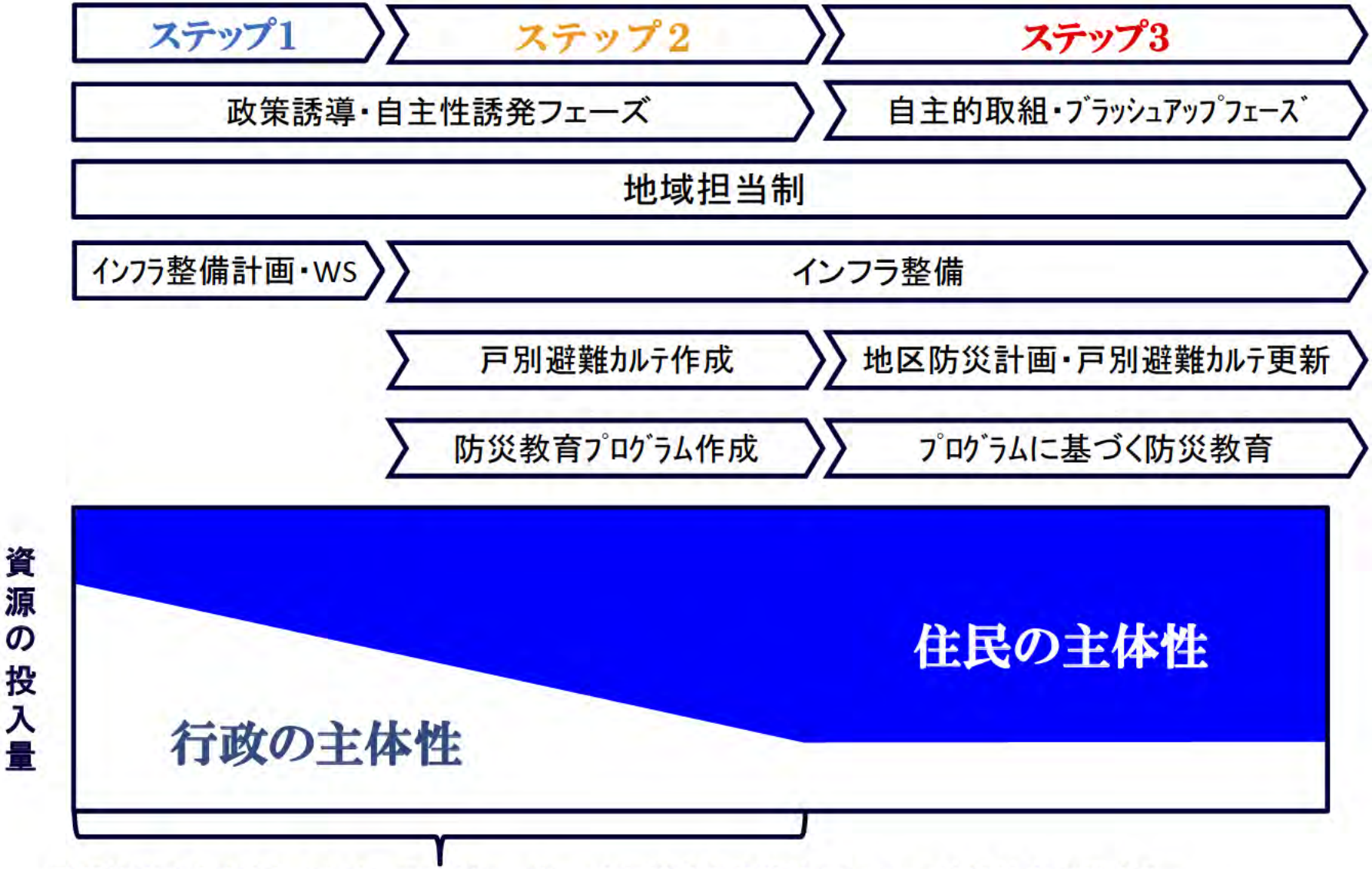
戸別カルテづくりで世帯ごとに落とし込んだ避難上の

人的・行動的課題群

防災活動への参加人数と活動内容別の実施回数（累計）



■防災の日常化へ向けたシフトチェンジ



避難放棄者を出さないため、行政がリードしてきた構造を段階的にシフト⇒地域社会の健全化へ

安政津波の碑(賀茂神社)

「嘉永７年（＝安政元年、１８５４）１１月４日の昼、かすかな地震があった。潮がなぎさに満ちてきた。俗に鈴波と呼んでいる。これは津波の前兆である。翌日は何事もなく日常生活に復したが、申刻（午後４時）頃大地震があり瓦葺きの家も茅葺きの家も倒壊し、見渡す限り建っている家は一軒もなかった。土煙が立ちこめるなか人は争って山の頂上目指して登った。牡蛎瀬川（かきせがわ）、吹上川に潮が漲（みなぎ）った。
津波の来襲である。津波は第４波が最大で、夜になるまでに７回波が襲ってきた。庭も水田も海になった。かつて宝永４年（１７０７）１０月４日にも同じ事があったと聞いているが、それ以来１４８年目に当たる。牡蛎瀬川の石を取りこの石碑をつくって後人に警告を残すことにした。鈴波は津波の前兆である。今後１００年あまりの後の世に生きる人は、この警告を知っておくべきである」

この文面からは、その安政地震により見渡す限りの家は倒壊し、７回も襲来した津波によって、辺り一面が浸水したことが伝わってきます。また、宝永４年から１４７年の経っていることに注目し、将来１００年余り年代が経過すれば再び同じ事が起きるであろうと予測して、そのころの子孫に警告を残しています。

前日の安政東南海地震による小津波を「鈴波」と呼んで、本格的な津波の前兆ととらえていますが、これは現代の私たちの目から見れば正しいとはいえません。しかし、先人が残した警告を真摯に受け止め、次の南海地震に備えなければなりません。